

## 命とお金の大切さ

弘前市立第三大成小学校

桑村 大智

みなさんは、もし五百円玉を拾ったら、どうしますか。

五百円玉は、ぼくにとっては、少し大金です。だから、ちよ金をして、買いたいものを考えて後でたくさん買おうと思います。

この本は、主人公のめいちゃんがしゃべる五百円玉を拾ったところからはじまります。

「オレさまで、すぎなものを買いなよ。」

と、五百円玉に言われためいちゃんは、五百円玉の使い道をいろいろ考えます。おかしをたくさん買おうとしましたが、五百円では足りなかったり、カメを買おうと思ってもケースやえさ代が足りなかったり…。五百円のお花を買おうとしたら、消ひげい分が足りませんでした。それでも、五百円玉を大切に使うとしていためいちゃんと、いろいろな文句のように言いながらも、めいちゃんのことを心配しているような五百円玉がおもしろいなあと思いました。

ぼくは、この五百円玉は神様から心をもらったと思います。

そして、めいちゃんのとこにあらわれたのも、神様のしわざのような気がします。

なぜなら、さいごにめいちゃんが五百円玉で手に入れたものは、思いもよらなかったものだからです。それは何だと思いますか。

めいちゃんは、空き地でカラスにおそわれそうになっている子ねこを助けるために五百円玉を投げつけたのです。五百円玉は消えてしまいましたが、めいちゃんは子ねこを手に入れたのです。お金では買えない命を手に入れたのです。ぼくは、勇気があつてやさしいめいちゃんがいいなあと思いました。そして、消えた五百円玉も気になりました。

この本を読んで、お金には、いろいろな使い道があることを知りました。そして、お金を使うときには、よく考えて、大切に使うなければいけないことに気づかれました。しゃべる五百円玉は、読者のぼくにもお金について考えるきっかけをたくさんあたえてくれました。だから、ぼくもこれから

は、よく考えてお金を使いたいです。そして、買ったものを大切にしていきます。お金で買えないものの大切さもわすれないですぐしたいです。

もしかしたら、みなさんの近くにも、めいちゃんがなくした五百円玉がいて、話しかけてくるかもしれませんよ。